

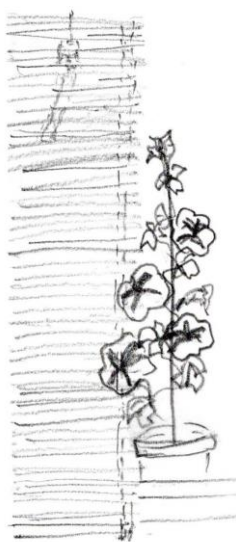
## 藤田浩子の 少し昔のこと 〈87〉

## 赤ちゃんの朝一番の仕事「朝ション」

今春入園してきた3歳児（というのは、もう何人かの子は4歳になっているということです）半分以上の子がおむつをしていました。どこの幼稚園でも似たような数字で、おむつをしている子が半数前後いることに驚きました。このところ毎年新入園児でおむつをしている子が増えているとは思っていたのですが、半数以上の子がおむつをしていることに衝撃を受けました。

それで何人かのお母さんに「朝、赤ちゃんが目覚めたらすぐトイレに連れて行っていませんか、と訊いてみました。皆無でした。これまた衝撃を受けました。

私が子育てをしたころ（というのは60年前のことですが）当たり前だった習慣、赤ちゃんが半年を過ぎたら（首がすわり、背骨がしっかりしてきたら）目覚めと同時に抱っこして「おはよう、いっぱいねんね



したねえ」とか「泣かないで起きさせてえらかったねえ」などと声をかけながらトイレに行く、そしてトイレに行ったらそのままくると後ろ向きに抱いて足をひろげてやる、そうすれば、お母さんに抱っこされているという安心感と、一晩中溜めていたオシッコを出したいという生理的欲求で、必ずオシッコが出ます。そこで赤ちゃんはオシッコをおむつにではなく、直接出すという経験をするのです。その習慣を「朝ション」といいました。その「朝ション」がいつのまにかすたれていたのです。

「朝ション」でオシッコを直接出す経験してきた子は、オシッコをおむつにではなく、直接出すということに抵抗がありませんから「おむつはずし」もラクにできます。たいていの子は1歳半から2歳の夏におむつがはずれました。

その「朝ション」の習慣がなぜなくなってしまったのか、「おむつはずし」とどう関係があるのか、次号で書きたいと思います。

リレー連載 <220>

## わたしの大好きな絵本

ミズけいと（元楽々会）

ある国の野外動物園にブルブルというみなしごのライオンがいました。ブルブルはムクムクというめす犬に育てられることになりました。やさしいムクムクのおかげでブルブルはりっぱなやさしいライオンになりました。ところが、ある日親子は身勝手な人間により離れ離れにされてしまいました。でも親子の絆は強くつながっていました。どこでも、どんな時でも、何が起ころうとも…それなのに…

表紙の無邪気なブルブルと愛しげに見つめるムクムク、その表情は暖かくやさしさにあふれています。

## 『やさしいライオン』

作・絵 やなせたかし  
フレーベル館

「やさしい心が育てたやさしい心」

「お互いを思いやる心の強さ」

今、世界中の人々がこの気持ちを持つようにと願わずにはいられません。

アンパンマンのやなせさんにとって絵本の原点になった絵本だそうですが、私の絵本の読み聞かせの原点でもあります。今は成人した息子のために選んでくれた亡き父への感謝とともに…

